

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策I-3-2 情報発信等誘客宣伝活動の強化
---------	---------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	観光振興課長 堀江 隆典	電話番号	0852-22-6298
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	県内航空路線利用促進（観光振興）事業		
目的	(1) 対象	様々な観光ニーズを持つ人々	
	(2) 意図	航空路線を利用して島根県を訪れてもらう	
事業概要	萩・石見空港において県内空港利用促進対策と相乗効果を生む観光振興対策を実施する		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	萩・石見空港旅客数	目標値	13.0	13.5	13.8	14.1	14.5	万人
			取組目標値						
	式・定義	萩・石見空港利用実績調査（萩・石見空港利用拡大促進協議会作成）	実績値	12.6					
			達成率	97.0	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	31,623	32,000
うち一般財源 (千円)	31,623	32,000

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

萩・石見空港を利用した旅行商品の造成促進のため、旅行会社に対してパンフレット助成やインセンティブ付与等を実施した。また、空港利用者の利便性向上を図るためレンタカー割引を組み込んだ旅行商品造成支援も実施した。
 なお、石見地域の魅力を体験してもらうため、神楽めしクーポンや温泉手形を発行し、空港利用者の観光満足度の向上を図ったり、石見地域の観光情報をPRするため、WEB活用による情報発信も実施した。
 （東京線）平成26年3月30日から2年間の期限付きの2便化。平成27年末の羽田発着枠政策コンテストにより、平成28年3月27日から2年間の2便化継続が決定。H27年度利用者数は122,472人、利用率は55%程度（H26年度は52%）（大阪線）H23年度に定期便から期間限定便となる。H27年度利用者数は3,250人（H26年度は3,480人）、利用率は50%程度（H26年度は53%）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

東京線の2便化については、平成27年末の羽田発着枠政策コンテストにより、平成28年3月27日から2年間の継続が決定。H27年度の利用者数は122,472人と増加した。（H26年度は110,199人）
 なお、旅行会社への商品造成支援等により約4,700名の集客につながった。レンタカー助成については、約300名の利用があり、石見温泉手形・神楽めしクーポンについては、約1,000名の利用があった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 東京線は、2便化が2年間継続となった。利用者数は増加したものの、利用率は55%程度（H26年度52%）と低迷しており、更なる利用者数の増加を図っていく必要がある。
 大阪線は、H23年度に定期便から期間限定便となっている。利用者数はH26年度以降は減少傾向であり、定期便の再開に向けて更なる利用促進策が必要である。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 石見地域の観光地としての魅力が首都圏や関西圏の旅行者にあまり認知されておらず、旅行先として選ばれにくい。
- ③原因を解消するための「課題」
 石見地域における観光素材や旅行商品の造成に引き続き取り組み、観光地としての魅力向上を図るとともに、県外（主に首都圏・関西圏）に対する情報発信を強化する必要がある。
 併せて、旅行者が快適に萩・石見空港を利用した旅行を楽しめるよう、空港からの移動手段の充実を図る必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・萩・石見空港利用促進協議会と連携し、空港利用の拡大に向けたPR・情報発信を行う。
 ・周辺地域の観光素材を活用した魅力ある観光地づくりを推進していくとともに、多様なニーズを持つ個人観光客を取り込むことができる旅行商品の造成を旅行会社と共に進めていく。
 ・個人客にとって、空港に降り立ってからの交通手段は重要であり、空港から主要駅までの移動だけでなく、観光施設間の移動も考慮し、引き続きレンタカー利用など二次交通の整備により周遊性の向上に取り組んでいく。

9. 追加評価（任意記載）

課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。